

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年7月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2271101351
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ ほのか
所在地 (電話番号)	沼津市大岡905-6 055-925-7003
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月30日

【情報提供票より】(平成19年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	10.4 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	65,000 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック 石田歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し入った住宅地に立つホームで、隣接して小さな公園があり、利用者が気軽に出入りできる場所となっている。開所から1年半、利用者一人ひとりが望む暮らしを実現するために様々な取組みがされてきた。家庭的で自由なホームを目指し、職員は利用者と家族のように接している。誕生会にフルーツの得意な職員が誕生日を迎えた利用者からのリクエスト曲を演奏する心温まるミニコンサートも続けられている。開設時の困難などを管理職・職員の協働により通過してきた今、更に強くなったチームワークで利用者の心地良いスローライフを支え続けてゆくことをお願いしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>新設のため、今回初めての外部評価受審である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価記入に当たっては一部職員の意見を取り入れて管理者が作成したものであるが、記入の段階で忘れていたことを思い出したり、気づきがあった。自己評価、外部評価結果については会議等で問題点について話し合い、改善してゆく姿勢である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はホームの説明や日常の様子や報告だけに留まらず、近所の方も誘って利用者と共に「おやつ作り」をしていただく交流の場を持つまで広がった。その際、アンケートを実施し、感想には「もっと暗い所かと思った、利用者がのびのびしている、鍵をしていない、また遊びに来たい」などホームに対する認識が大きく変わったことが記され、その後の交流に大いに寄与している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に苦情相談窓口について説明しており、家族面会の際には会話の中で意見の聞き出しをしている。毎月の報告を受けて家族からも意見が届いており、苦情や要望には状況を調べて、事情説明や改善など真摯に対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会へ加入して、清掃活動や公会堂で催されるサロン展に利用者の作品を出品している。近隣の方々とは散歩の折の会話や、生産の野菜を届けていただいたり、小学生が学校帰りに立ち寄ってくれるなど気軽に交流している。また、地域住民を対象に認知症サポーター研修も開催し、近く行なわれる避難訓練には近隣住民の協力が得られる予定である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開所時に全職員で理念「家庭的な会話と思いやりの心を持つ心地良いスローライフ」を作り上げた。	○	地域密着型サービスとして利用者が住み慣れた地域の中で継続的に暮らしてゆくためにどんな支援が出来るか話し合い目標に掲げるをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議で「グループホームとは?」「地域密着型とは?」を話し合い、方向をひとつにしている。また、職員それぞれがホームの特徴として、何よりも家庭的でゆったりした暮らしの実践を挙げており、多くの場面で確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入して、清掃活動や公会堂で催されるサロン展に利用者の作品を出品している。近隣の方々とは散歩の折の会話や、生産の野菜を届けていただいたり、小学生が学校帰りに立ち寄ってくれるなど気軽な交流が出来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は管理者が一部職員の意見を聞いて纏めたものである。自己評価の段階で多くの気づきがあり、外部評価結果については家族や運営推進会議で話し合い、改善に生かす所存である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの暮らしや認知症について理解を得るために運営推進会議を利用して、近所の方も誘って利用者と共におやつ作りをしていただいた。その際、アンケートを実施し、感想にはホームに対する認識が大きく変わったことが記され、その後の交流に大いに寄与している。	○	運営推進会議開催は地域の理解と支援を得ることの出来る貴重な機会なので定期的な開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する研修に参加したり、入居相談などを行っている。また、地域包括支援センターと協力して地区公会堂で認知症サポーター研修を開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、請求書送付の際に、利用者の様子や金銭管理についてお手紙にて報告している。医療面については特に細かいところまで報告しており、「報告は具体的に行き届いている」との家族の声も聞かれた。	○	ホーム便りが計画されているので、発刊が楽しみである。家族への報告は食事や排せつ、入浴や睡眠など日常の当たり前に行われていることもお知らせして家族により安心していただくようお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口について説明しており、家族が面会の際には会話の中で意見の聞き出しをしている。毎月の報告を受けて家族からも意見が届いており、苦情や要望には状況を調べ説明や改善など真摯に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わることによる利用者のダメージを抑える為に離職を防ぐよう努めている。新しい職員は利用者と一緒に生活いたします、と挨拶をしている。	○	今後職員が退職する場合に備えて、利用者への影響を最小限に抑える為の仕組みを予め作成しておくことが望まれる。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が主催する講演があり参加している。系列グループホームの管理者会議が2カ月に一度開催され感染症や防災について勉強しており、ホームに持ち帰って内部勉強会で共有している。	○	職員がそれぞれの習熟度に沿った研修が受けられるよう外部研修、内部研修の年間計画を立て個々に相応しい受講の機会を得ることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列グループホームとの交流をしている。実践者研修の実習に来た他ホームの職員と交流している。	○	他ホームとの交流は多くの気づきを得る機会ですサービスの向上に繋がるので積極的な取り組みが望まれる。市内のグループホームと利用者をつなぐ交流の話が出ているので、実現していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には日中来て過ごし、職員の動きやホームの雰囲気を感じていただいている。2日間ホームで、2日間は自宅で過ごし、慣れたら週末だけ自宅で過ごし、次には月に一度だけ自宅へ戻るといように徐々に馴染んでゆけるように家族と連携して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、利用者から料理や掃除の仕方を教えていただき主婦の知識をいただいている。ホームでは、業務で無く家庭でおかあさんやおばあちゃんと暮らす雰囲気になれる関係作りが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の家族・知人等からの情報を基に一人ひとりの好み、安心する呼び方等を細かく把握している。それにより利用者が希望や意向を表現し易い環境を作り、職員は出来る限りそれに答える様支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたって担当者会議を開き、本人・家族の意向やケアマネージャー・職員等の意見を取り入れた個別具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しと利用者に変化のあった際の随時の見直しを行っている。今後毎月モニタリングを行い見直しを行っていく予定である。見直した計画は家族に説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居間もない利用者の不安を少しでも軽くする為家族にも宿泊して頂いたり、かかりつけ医への受診の付き添い等柔軟に対応できる体制を整えている。また、今後家族を対象に認知症サポーター講座を開催する予定もあり、認知症についての理解を広めていく役割も担っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に5日の提携医往診と週1回の訪問看護師来所により利用者の体調管理を行っている。緊急時にもすぐに連絡をとる事の出来る体制ができています。かかりつけ医での受診を希望する利用者には家族と共に職員が同行し情報提供を行う事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関しては家族来所時や担当者会議で話し合い、同意を得ている。基本的に専門的な医療処置が必要になった際には家族に説明の上、入院して頂く方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の家族や知人から昔の呼び名を聞きだし、日頃からその呼び名で呼ぶ事で本人に安心感を与えている。また、声かけも耳元でそっと行う配慮もみられた。個人情報に関わる書類は鍵のかかるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活には基本的に決まりはなく、利用者のその日の希望やペースに合わせて支援を行っている。職員はゆっくりでも本人の力を引き出しながらサポートし、満足感を得て頂ける様常に意識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・食事・片付け等全般に渡り職員は利用者と共に 行っていた。食事の準備では女性利用者が職員と相談しながら味見や盛り付けを生き活きとした表情で行っていた。食事中に料理についてのコメントをもらう事も、作った利用者にとっての満足感に繋がっている様である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・回数等特に決まりは無く、希望に合わせて自由に入浴可能である為毎日入浴する利用者もいる。拒否する利用者にも時間を変えて誘う等の試みで、週に最低2回は入浴して頂ける様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握しており、一人ひとりに合わせた支援を行っている。ホーム内で行う手芸や刺し子・塗り絵等の活動以外にもパチンコや居酒屋に行きたいという利用者がいれば職員も共に行き、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩や買い物等日常的に外出の機会は多くある。また、車で桜見物や鯉のぼり見物等季節感を味わう事の出来る場所へも定期的に出掛けており、利用者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は利用者に精神的な圧迫感を与えない様、鍵をかけず見守りに対応する方針が貫かれている。夜間は安全の為、家族に説明し同意を得た上で施錠を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急搬送時対応・火災時対応等マニュアルがあり、職員は対応を把握している。また、非常食や水の備蓄も行い万が一に備えている。	○	運営推進会議において地域の方と共に避難訓練を行う計画を早期に実現して頂き、更なる利用者の安心と職員にとっての自信に繋げて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事管理表を基に栄養のバランスを考え、献立や調理方法を考えている。水分は定時と本人希望時のお茶出しで十分摂取して頂いている。</p>	○	<p>食事と水分量をより詳細に数値で記録に残す等の方法で、利用者の健康状態の把握や体調変化の早期発見に繋げて頂きたい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内は暖かな自然の光が差し込み、明るく清潔感のある空間となっていた。壁には近所の方から寄付された手作りの壁紙も飾っており、彩りを添えていた。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には箆笥や鏡台、仏壇など馴染みの品が多く持ち込まれており、一人ひとりの入居前の生活が窺える居室となっていた。</p>		